

## 資質・能力を育てる多様なテキスト形式、「考えの形成と深化」

### —「空を見上げて」（中学1年）の「精査・解釈」・汎用性（レジリエンス）—

佐藤 洋一\* 左近 妙子\*\*

\*教職実践講座 \*\*名古屋市立平和小学校

Key competencies and skills developed by various context, "Generating and Deepening Student Thinking".

Interpretation and Resilience of "Look up the sky(7th grade reading material)".

Yoichi SATO\*, Taeko SAKON \*\*

\*Graduate School of Practitioners in Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

\*\*Heiwa Primary School, Nagoya 460-0021, Japan

#### 要 約

次期学習指導要領は世界的な教育動向を踏まえ、現代的諸課題に対応できる未来志向の教育を構築するため、知識内容型（コンテンツベース）から資質・能力育成（コンピテンシーベース）型教育課程へのシフトアップがなされたとみることができる。質的に高い、深い学び（論理的で創造的な学び、人間性につながる学び）が目指されており、「何を知っているか（知識・技能）」（各教科を学ぶ本質的意義、「見方・考え方」）とともに「知っていること、できることをどのように使うか（思考力、判断力、表現力等への活用、考えの形成と深化）」「社会や世界との関わり、より良い人生をどう送るか（学びに向かう力、人間性等）」が問われることになる。

これらの背景には、最新の学習科学の成果や非認知能力、創造的・革新的な資質・能力の重要性の指摘があり、従来までの教育方法・教育課程、評価観等を克服した理論的実践的提案が求められている。レジリエンスや自己調整能力、創造性・革新性、メタ認知等の非認知能力をどう育成し評価するのも大きな実践課題である。

本稿は複雑多様な価値観やフェイクニュース等が溢れる現代社会を自分らしく生き抜き、確かな判断力と豊かな感受性を高める教育方法・教育課程研究の一環であり、困難に打ち勝つ力、ユーモア等の統合的資質・能力で人間性にも深く関るとされるレジリエンス（非認知的資質・能力）育成の実践開発・提案を行ったものである。

**Keyword :** 資質・能力、レジリエンス（非認知的資質・能力）、テキスト形式、精査・解釈

#### 一 新学習指導要領と育成すべき資質・能力

2017年3月に次世代型の資質・能力育成に基軸を置く新学習指導要領が公示され（幼小中・特別支援）、6月に「解説」が公表された。この背景にはAI革命による「シンギュラリティ（技術的特異点）2045年問題」（第4次産業革命）、「OECD 新たな教育モデル 2030」（2018年PISA調査の枠組み）等、様々な動向がある（注1）。

こうした教育的動向を受け、各教科で育成すべき資質・能力、各教科を学ぶ本質的意義（「見方・考え方」）とその汎用性・人間性も改めて資質・能力育成の観点から問われている。態度や価値観に関する「学びに向かう力、人間性等」とは何がどうなることか、その過程で「知っていること、できることをどう使うのか（思考力、判断力、表現力等への活用）」の内実もまた問われている。

#### 二 多様なテキスト形式の解明と「考えの形成・深化」

小中・高校国語科では、一貫して「論理的・創造的」な言語能力を高めるために「構成・表現形式の評価、批評」「考えの形成・深化」が重視されている。特に「構成・表現形式の評価、批評」は私見では多様なテキスト形式の判断・評価・活用、メタ認知能力育成等のことであり、全教科・教育課程全体の再構築に関わる、論理的で創造的な言語力育成につながる点の一つである。

例えば、現在の国語科教育では文章論・テキスト表現形式論の偏り、狭さが課題である（詳細は略）。生活綴り方作文や日記の指導論と論理的（文学的）な文章の指導の関係、論説・評論・批評、記録、鑑賞や批評文作成と生活作文や生活詩等はどうか。これまでの、多様なテキスト形式の熟考・評価や情報リテラシー等の指導の不十分さは、全国学力・学習状況調査B問題が解けない子ども達が多いという課題にも露出している。

次世代型教育では表層的な思考力や表現力育成では

なく、表現力の質的な価値、深さや本質性・評価観、「テキスト形式、考えの形成・深化」と結びついた指導・評価観が問われる。今後は、目的・役割・機能に応じた様々な文章形式・テキスト（内容と形式、方法と価値等）を読み解き批評・評価する力、より効果的に説得力を持ち表現・評価できる能力の育成が重要である（注2）。

さらに「構成・表現形式を評価する力」「考えを形成し深める力」等の重視は「思考力、判断力、表現力等」の在り方と結びついたパフォーマンス課題と評価観、ルーブリックと妥当性等も問われてくる。論述・プレゼンテーションや質疑応答、討論や議論を深める力・評価する力、仲間と効果的に協働する力、新たな価値の創造や提案性、実践と参画等をどのようなルーブリックで何を、どう評価し子どもたちにどう返すのか。これ等は学習過程の構造化、カリキュラム・マネジメント（教育課程論）にも直接関わってくる点である（注3）。

### 三 レジリエンスと「学びに向かう力、人間性等」

教育現場での実践化と評価が困難であるとされ、混乱が見られるのが新しい教育課程・授業構想と評価観の鍵となる「学びに向かう力、人間性等（の涵養）」である。学習を通してどのように社会や世界と関わり、どう主体的により良く豊かな人生を送るか等、児童生徒の「生き方」や価値観の更新に直結する「深い人間的な学び」の形成、個人と社会の成長につながる教育が必要不可欠である。

本稿では「学びに向かう力・人間性等（の涵養）」の一つとみることができるレジリエンス（非認知的資質・能力）の育成の在り方を提案する。レジリエンスとは、逆境や強いストレスに直面した時に適応する精神力・心理的プロセスの一つであり、一般的には困難に打ち勝つ力や跳ね返す力としてとらえられ1990年代以降、日本では特に東日本震災の時以降、大きな注目が集まった。どんなに技術革新が進んでも未知の状況に柔軟に対応し人としてあるべき正しい道を選択・判断、創造できる資質・能力は（生きる力としてのレジリエンスやユーモア、自己調整能力等）、今後ますます必要とされる力である。

レジリエンスの特性は遺伝的な要因が大きいと考えられがちであるが、論理的に思考・判断の仕方をメタ化することで、誰もがレジリエンスを身に付けることができる。特別活動及び道徳の時間にレジリエンスを高める実践も試みられているが（注4）、国語科として視点からは現時点では行われていないとみることができる。

また、小中学生という発達段階はまだ人生経験も少なく、存在の根本が脅かされるような苦悩・逆境と呼べるような危機には出会っていない子ども達も多い。レジリエンスが未来に生きる力と理解できても現時点で生きて働く力でないと学習の有用感を感じることができず、モチベーションを保つことが難しい。この点についてはレジリエンスを「われわれは、逆境と呼べるような深刻な状況を経験することは少ないが、日々、大小のつま

きには出会っている。とすれば、大きなネガティブ・ライフイベントではなく日々のつまずきからの立ち直る力」（注5）と捉え、「Grotberg, E. H はレジリエンスを『逆境をはねつける防御因子ではなく、日常的なできごとで、ストレスフルな状況を乗り越えるために機能する性質』と定義している。（略）レジリエンスの特性と日々のつまずきを対象に、研究が行われている」（注5）。これ等の知見を踏まえ、子ども自身にとって現時点での切実な、必要な課題と向き合う学びを構想する。

さらに、学びの創造性の重視とそのための情報リテラシーや論理的思考力・表現力、場面や目的に合った論述、討論・議論を評価する力、プレゼンテーション能力等を育成するために、人生経験の少ない子ども達に偉人だけでなく身近な大人が危機をどう乗り越えて生きているかについての情報を収集・判断し、論理的に構成してプレゼンテーションを行う学習も組み込む。

### 四 「空を見上げて」の教材的価値とテキスト形式

#### 1、東日本大震災とレジリエンス・言葉

東日本大震災は2011年3月11日（金曜日）14時46分18秒、宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmを震源として発生。地震の規模はマグニチュード9.0で、発生時点、日本周辺における観測史上最大の巨大地震である。それに伴い巨大な津波が500kmを超える沿岸域を襲い、福島第一原子力発電所での事故も加わり放射能の影響が現在でも残る複合的な大災害となった。

震災に対するレジリエンスは、国家的・地域的なレベルのものから人の心まで様々なレベルがある。物的被害については徐々に復興・復旧しつつあるというものの、震災の心的外傷の回復は極めて困難であり、長期的な体制づくりやケア、及び実践が必要となってくる。

レジリエンスを高め心を回復する方法の一つは、真摯な対話を通して人とつながることである。「空を見上げて」の筆者・山中勉氏は1958年東京都生まれの宇宙航空システムエンジニアで、JAXAの主幹研究員、財団法人日本宇宙フォーラムの主任研究員を経て国際宇宙ステーションを利用した言葉紡ぎを発案、推進に従事する。震災前に作品を宇宙に打ち上げる企画に応募のあった幾つかの地域の学校が被災して連絡が途絶えた際、支援を求める新聞記事を見付け、それを機に東日本大震災で傷ついた宮城県女町の中学生の心を言葉で解き放ち世界や宇宙とつなげる活動を始めた。山中氏は『自分が確かに存在している証』を宇宙的なスケールで他者とつながる中で確かめる（注6）中学生の姿を見出し、「言葉がもつ人間と人間をつなげる力の大きな可能性を感じる」（注6）と述べている。

#### 2、「空を見上げて」のテキスト形式を生かす学習

「空を見上げて」は教科書のための書き下ろしであるが、原典は教材で取り上げた言葉紡ぎの活動を著者がまとめた俳句（連歌）集、山中勉編著『みあげれば がれ



きの上に『こいのぼり』(遊行社 2012 年)である。

「空を見上げて」は、宇宙と言葉という一見関連のない世界を生命・生きることの尊さと他者との繋がり、祈りを結び付けた点に特質がある。宇宙のもつ魅力は人類に夢と希望、可能性を感じさせ、知的好奇心を揺り動かす一つである。同時に筆者の山中氏が「宇宙という広大な時空の中で『わたし』とは何者か?『わたし』は確かに存在しているのか?を探したいという発達課題を、日本の子どもたちが内包しているからではないでしょうか。宇宙は、そうした発達課題に働きかける不思議な力があるのではないのでしょうか」(注 6)と述べているように、宇宙的な俯瞰の視野を持つことで生きることへの祈り(死者へのレクイエム)、生命の神秘と尊厳へのリレーが地球誕生から現在まで続いていることに気づき、子ども達自身が地球という星の、今にここに生きている奇跡を実感できる教材性を持つとみることができる。

また「空を見上げて」では筆者の提案する言葉紡ぎとして俳句・連歌という形式がとられている。俳句は五七五の一七音から成る世界で最も短い象徴的な定型詩であるが、基は五七五に七七を付け、そこに五七五を付けと多数の人達が交互に作っていく連歌であった。連歌は別の人が詠み継いでいくことで一人で詠んだ時には表れない思いがけない発想や意味の繋がり・拡大、変化が生まれるところに独特のおもしろさがある。「空を見上げて」でも同じように、女川中学校の生徒が詠んだ句を発句として他者が七七を付けることで、震災によって既存の世界・社会が一旦崩壊した中学生と他者(世界・社会)との新たな関係性が生まれ、中学生が自分の真の存在感覚を言葉とそれに込められた思いや祈りを通して発見する構造的で感動的なストーリーとなっている。

「空を見上げて」は、ノンフィクションとしての論理的文章と詩歌(俳句、連歌)・文学的文章との二つのテキスト形式を備えた「活用・複合型テキスト」とみることができる。「空を見上げて」のテキスト形式の特質を生かし、子ども達に活用・複合型テキストを読む楽しさと方法、創造的・批評的な資質・能力(確かな習得から考えの形成、論理的な思考と表現、説得力ある批評等)を育てるため、学び方の観点を、以下の 9 ポイントとして整理した。

- ① 筆者の主張(メッセージ)を正確に読み取る(メッセージの正確な理解から「考えの形成」へ)
- ② 筆者の主張の背景・前提にある「時代的な価値観・常識的な価値観」を理解する(筆者の個性と生き方)
- ③ 選ばれたエピソード内容(語彙、イメージ、願い等)、テキスト形式の特質を読み取る(喪失と絶望と生きること、祈り…、俳句・連歌というテキストの効果等)
- ④ 自分で選んだ人物についてのレジリエンス、自分の考えを論理的に書く(「考えの形成(深化)」「構成・表現」)。
- ⑤ 対話や交流で「自分の考え」を形成・深化させ、自らの生き方や価値観に生かす(「共有」と学びの再構築)。
- ⑥ 俳句・連歌の優れた描写や象徴的イメージの意味、効

果を読み取る(テキスト内容と形式の評価・批評)

- ⑦ 俳句・連歌のメッセージ内容を読み取る(テキスト内容の「精査・解釈」と批評、論述)
- ⑧ 自分の興味関心・課題意識から「自分の考え」を持つ
- ⑨ ノンフィクション・詩歌テキスト形式と内容の評価・批評を振り返り、他教科への活用、生き方・価値観等の面から学びを自覚する(メタ評価化)。

## 五 「空を見上げて」(中学 1 年)の授業・評価開発

### 1、到達目標とルーブリック 4 段階

#### (1) レジリエンス・自分自身の課題を明らかにする【習得 1—学びの主体性と意欲化—】

〈S 評価〉自分の生活を振り返りよくしてしまう考え方の癖を知りどんな場面かが友達に伝わるように詳しく書き表している。

〈A 評価〉自分の生活を振り返りよくしてしまう考え方の癖を知りどんな場面かが友達に伝わるように書き表している。

〈B 評価〉自分の生活を振り返りよくしてしまう考え方の癖を知りどんな場面かを書き表している。

〈C 評価〉自分の生活を振り返ってよくしてしまう考え方の癖を知ることができない。

#### (2) 「空を見上げて」を正確に、豊かに読み取る

##### 【習得 2—ノンフィクション・詩歌テキスト形式の習得・活用—】

〈S 評価〉「空を見上げて」の文章構成や要旨、背景を正確に読み取ったり五七五に友達が付けた七七の良さを豊かに読み取ったりできる。

〈A 評価〉「空を見上げて」の文章構成や要旨、背景を正確に読み取り五七五に友達が付けた七七の良さに気付いている。

〈B 評価〉「空を見上げて」の文章構成や要旨をキーワードに着目して読み取り要約している。

〈C 評価〉「空を見上げて」の文章構成や要旨をキーワードに着目して読み取ることができない。

#### (3) 困難を乗り越えた人物のレジリエンスについて、レポートにまとめることができる

##### 【活用 1—情報の選択・構成とテキスト批評—】

〈S 評価〉困難を乗り越えた人物のレジリエンスとそれに対する自分の考えを、一番伝えたいことを明確にして書いている。

〈A 評価〉困難を乗り越えた人物のレジリエンスと自分の考えを、四段階の構成で書いている。

〈B 評価〉困難を乗り越えた人物の生き方についての情報を集め必要な情報を選択し四段階の構成でレポートを書いている。

〈C 評価〉困難を乗り越えた人物の生き方についての情報を集め選択しレポートを書けない。

#### (4) 友達とレポートを読み合い、困難を乗り越えた人物の生き方を知ってそれぞれのレジリエンスにつ

いての考えをもつことができる

【活用2—学び合いと思考の深化・評価—】

〈S評価〉友達とレポートを読み合い書いた「いいね！カード」をもとに考えを話し合い互いの発言を結び付け自分の考えを深めている。

〈A評価〉友達とレポートを読み合い書いた「いいね！カード」をもとに考えを話し合う時、友達の「いいね！」と考えに対する感想を伝えている。

〈B評価〉いいと思ったところに「いいね！シール」をはり、「自分はどう考える！」に自分の考えをまとめている。

〈C評価〉いいと思ったところに「いいね！シール」をはることができない。

(5) 学びを振り返り「マイ・レジリエンス宣言」を

【振り返り—学びの汎用性とメタ化、探究へ—】

〈S評価〉これまでの学びを振り返り根拠を明確にし考えが伝わるように工夫し「マイ・レジリエンス宣言」を書いている。

〈A評価〉学びを振り返り根拠を明確にし「マイ・レジリエンス宣言」を書いている。

〈B評価〉学びを振り返り「マイ・レジリエンス宣言」を書いている。

〈C評価〉学びを振り返ることができない。

2、授業展開—習得から活用・探究へ—

(1) 習得型学習 1 (導入) (1 時間)

導入では見通しを持ち課題をつかむシート(資料1)を使用し、生徒にとり聞き慣れない「レジリエンス」とは何か・定義を知らせる。次にステップ1からステップ5までの「学び方」を確認。その際「空を見上げて」はノンフィクションとしての論理的文章とエピソードとして詩歌が取り上げられているため文学的文章との二つのテキスト形式を備えた「活用・複合型テキスト」形式であること、このような複合型テキスト形式を読む楽しさと方法・戦略を学ぶことを伝える。

ステップ1では、レジリエンスを高める自分自身の課題の明確化・学習目標を示し、ネガティブ項目の中から自分の考え方の癖(思考・判断等の特色)を選ばせ、考え方の癖が出る場面を想起し記述させる。(注7)

このステップにおける深い学びの鍵(見方・考え方)は、どんな視点から教材文の主張やエピソードを捉え、どう見通しを持ち「考えを形成」するかを明らかにすること。教材本文の音読後「興味をもったこと、疑問に思ったこと、大切だと思ったこと、気になった人やもの」等について一人一人に初発の感想を持たせ、次の授業から生徒の課題を解決する場面を設定する。

(2) 習得型学習 2 (基礎) (3 時間)

—テキストの正確で豊かな読み方を身に付ける—  
ノンフィクションというテキスト形式を生かす上でポイントとなるのが子ども達の発達段階に応じた詳し

さを考慮した「時代の常識的なものの見方・考え方」の理解。筆者が時代の価値観とどう向き合い思考・判断しているかを批評・評価することが必要である。

ステップ2では習得・読むシート1(資料2)を使用し「空を見上げて」の筆者の経歴を確認、筆者がどんな立場の方で教材を通し何を伝えようとしたのかを考えさせる。「空を見上げて」を正確に読み解く上でのキーワードとなる「東日本大震災」「国際宇宙ステーションきぼう」について既存の知識を発表させた後で図書資料やインターネットで情報を集めてまとめさせる。

次に習得・読むシート2(資料3)を使い、文章構成を捉え筆者のメッセージをつかませる。習得型学習段階では、情報を正確に・批評的に読み解くための力を全員に身に付けることが大切。教材文のキーワードを一枚のシートにまとめ文章構成と各意味段落に基づき、教材テキスト形式・内容を精査・解釈させる。

その後習得・読むシート3(資料4)を使い、教材のエピソードとして載せられている句を正確に、豊かに読み取る学習を行う。詩歌はテーマの読み取りが目標ではなくテーマがどのように個性的に表現されているか、それを自分の経験や感性との関係からどう解釈するかが大切。詠み人特有の言葉の仕組みやイメージ、リズム等の読み方の基本を習得させ、句による現実の見方や考え方・表現方法を読み取らせる。言葉を手がかりに論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う。

(3) 活用型学習 (1 時間)

—自分の感性で七七を付け、良さを伝え合う—

これまでの習得型学習を生かし自分から発信する学習を行う段階。活用・書くシート(資料5)を使い「みあげれば がれきの上に こいのぼり」に七七・一四文字を付け発表し合う。友達が付けた句の良さを発見させる。限られた音数律の中で細部の表現や着眼点等から良さを指摘し合い子ども自身が詠み手のものの見方や感性、句のもつ魅力を発見できるようにする。次に教材から好きな句を選び、七七を付けさせ自由に鑑賞させる。こうした学習が詩歌を詠む楽しさや詩歌の表現の多様性を実感させ、他者と深く共感したり豊かに想像したりすることにつながっていく。

(4) 探究型学習 (3 時間)

—レジリエンスと「自分の考え」の形成—

探究段階では子ども達が既に持っている考えの構造・思考の枠組みを「自分らしい考え」により深化・構造化させることが重要である。探究・書くシート(資料6)を使い習得・活用で学んだテキスト形式論を踏まえ様々な苦難を乗り越えてきた人物のレジリエンスの在り方についてレポート作成を行う。習得型学習と並行し興味を持った人物の生き方やレジリエンスを、身近な大人へのインタビューや図書、インターネット等を使い情報を収集するよう予め伝えておく。

集めた情報から必要な情報を選択判断し、選んだ人物



資料 1

学習の見通しをもち、課題をつかむ学習シート

- 1 生徒にとって聞き慣れない「レジリエンス」という言葉を定義する。ストレスフルな状況を乗り越える、現時点での生徒にとっても必要な力であることを押さえる。
- 2 言葉を通して、レジリエンスを高める学習の進め方を確認する。ステップ1～5までの段階的な学習過程を生徒に提示する。
- 3 ネガティブ7項目の中から自分の考え方のくせを選ばせ、どんな場面かを想起させる。

※資料1～9はすべて自作の学習シート（作成・左近妙子）

「空を見上げて」山中勉 ―言葉を通して、レジリエンスを高めよう―

1年 名刺

★ レジリエンスについて

レジリエンスとは、「ストレスに耐えながら立ちあがることができる力」です。昔から、様々な状況に立ち向かう力を身につけておくことが、生きていく上で大切なことだと考えられてきました。そんな自分にとってのレジリエンスは、どのようなものでしょうか？ レジリエンスは特別な力ではなく、誰もが身につけることができる力です。国語科授業で、言葉を通してレジリエンスを高める方法を学びましょう。

★ 言葉を通して、レジリエンスを高めるための進め方を確認しよう。

ステップ1 レジリエンスについての自分の身の経験を明らかにしよう。

ステップ2 ノンフィクション「空を見上げて」を正確に、豊かに読み取ろう。

ステップ3 困難を乗り越えた人物のレジリエンスについて、レポートにまとめよう。

ステップ4 困難を乗り越えた人物の生き方から、それぞれのレジリエンスを読み取ろう。

ステップ5 学びを振り返り、マイ・レジリエンス宣言をしよう。

レジリエンスを高めるための、自分の身の経験を明らかにしよう。

★ 次の中で、自分の身の経験に合ったステップを選んでみよう。そのほか出るものはどんな場面かを思い出して、友達に話してみよう。詳しくは資料2を参照しよう。

「正確に」それはいいけど、どうしていいの？  
「豊かに」自分にはないけど、どうしていいの？  
「読み取る」自分にはないけど、どうしていいの？  
「まとめよう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「読み取ろう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「まとめよう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「読み取ろう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「まとめよう」自分にはないけど、どうしていいの？

心配大

どんな場面？

私は、クラスでも部活動でも、人の評価を聞き流すことができません。人が自分のことをいっているのだから、どうも気になるんです。だから、人から話していると、自分のことをいっているのだから心配になってしまっています。

資料 2

習得・読むシート1〈正確に読むために教材文の背景を知る学習シート〉

- 1 「空を見上げて」の筆者の経歴について確認し、筆者がどんな立場から何を伝えようとしたのかについて考えさせるきっかけとする。
- 2 「空を見上げて」を正確に読み解く上でのキーワードとなる「東日本大震災」「国際宇宙ステーションきぼう」について既存の知識を発表させた後で、図書資料やインターネットで情報を集めてまとめさせる。正確な理解のために、学習シートの写真だけでなく、映像資料も活用する。

「空を見上げて」山中勉 ―言葉を通して、レジリエンスを高めよう―

1年 名刺

★ レジリエンスについて

レジリエンスとは、「ストレスに耐えながら立ちあがることができる力」です。昔から、様々な状況に立ち向かう力を身につけておくことが、生きていく上で大切なことだと考えられてきました。そんな自分にとってのレジリエンスは、どのようなものでしょうか？ レジリエンスは特別な力ではなく、誰もが身につけることができる力です。国語科授業で、言葉を通してレジリエンスを高める方法を学びましょう。

★ 言葉を通して、レジリエンスを高めるための進め方を確認しよう。

ステップ1 レジリエンスについての自分の身の経験を明らかにしよう。

ステップ2 ノンフィクション「空を見上げて」を正確に、豊かに読み取ろう。

ステップ3 困難を乗り越えた人物のレジリエンスについて、レポートにまとめよう。

ステップ4 困難を乗り越えた人物の生き方から、それぞれのレジリエンスを読み取ろう。

ステップ5 学びを振り返り、マイ・レジリエンス宣言をしよう。

レジリエンスを高めるための、自分の身の経験を明らかにしよう。

★ 次の中で、自分の身の経験に合ったステップを選んでみよう。そのほか出るものはどんな場面かを思い出して、友達に話してみよう。詳しくは資料2を参照しよう。

「正確に」それはいいけど、どうしていいの？  
「豊かに」自分にはないけど、どうしていいの？  
「読み取る」自分にはないけど、どうしていいの？  
「まとめよう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「読み取ろう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「まとめよう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「読み取ろう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「まとめよう」自分にはないけど、どうしていいの？

心配大

どんな場面？

私は、クラスでも部活動でも、人の評価を聞き流すことができません。人が自分のことをいっているのだから、どうも気になるんです。だから、人から話していると、自分のことをいっているのだから心配になってしまっています。

【東日本大震災】  
「2011年（平成23年）3月11日（金曜日）14時46分、宮城県牡鹿半島の東沖、三〇キロメートルを震源とする東北地方太平洋沖で発生した地震のこと。地震の規模はマグニチュード九で、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震である。」

【国際宇宙ステーション（きぼう）】  
きぼうは宇宙航空研究開発機構（JAXA）が開発した日本の宇宙実験棟で、国際宇宙ステーション（ISS）の一部。ISSでは最大の実験棟である。エアロックやロボットアームを備え、ISSでは唯一、重量五〇キログラム程度までの超小型人工衛星を軌道投入できる機能をもつ。

【東日本大震災】  
「2011年（平成23年）3月11日（金曜日）14時46分、宮城県牡鹿半島の東沖、三〇キロメートルを震源とする東北地方太平洋沖で発生した地震のこと。地震の規模はマグニチュード九で、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震である。」

【国際宇宙ステーション（きぼう）】  
きぼうは宇宙航空研究開発機構（JAXA）が開発した日本の宇宙実験棟で、国際宇宙ステーション（ISS）の一部。ISSでは最大の実験棟である。エアロックやロボットアームを備え、ISSでは唯一、重量五〇キログラム程度までの超小型人工衛星を軌道投入できる機能をもつ。

資料 3

習得・読むシート2〈文章構成をとらえ、キーワードを読み取り、著者のメッセージをつかむ学習シート〉

- 1 情報を正確に、また批評的に読み解く力を全員に身に付けさせるための学習シートである。時間をかけた詳細な読解ではなく、一枚のシートにキーワードをまとめ、文章構成を意識させることで発信・交流のモデルとして習得学習を行う。
- 2 ( ) にはキーワードを、【 】 には見出しを書かせることで、筆者のメッセージと選ばれたエピソードの内容を読み取る。

「空を見上げて」山中勉 ―言葉を通して、レジリエンスを高めよう―

1年 名刺

★ レジリエンスについて

レジリエンスとは、「ストレスに耐えながら立ちあがることができる力」です。昔から、様々な状況に立ち向かう力を身につけておくことが、生きていく上で大切なことだと考えられてきました。そんな自分にとってのレジリエンスは、どのようなものでしょうか？ レジリエンスは特別な力ではなく、誰もが身につけることができる力です。国語科授業で、言葉を通してレジリエンスを高める方法を学びましょう。

★ 言葉を通して、レジリエンスを高めるための進め方を確認しよう。

ステップ1 レジリエンスについての自分の身の経験を明らかにしよう。

ステップ2 ノンフィクション「空を見上げて」を正確に、豊かに読み取ろう。

ステップ3 困難を乗り越えた人物のレジリエンスについて、レポートにまとめよう。

ステップ4 困難を乗り越えた人物の生き方から、それぞれのレジリエンスを読み取ろう。

ステップ5 学びを振り返り、マイ・レジリエンス宣言をしよう。

レジリエンスを高めるための、自分の身の経験を明らかにしよう。

★ 次の中で、自分の身の経験に合ったステップを選んでみよう。そのほか出るものはどんな場面かを思い出して、友達に話してみよう。詳しくは資料2を参照しよう。

「正確に」それはいいけど、どうしていいの？  
「豊かに」自分にはないけど、どうしていいの？  
「読み取る」自分にはないけど、どうしていいの？  
「まとめよう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「読み取ろう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「まとめよう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「読み取ろう」自分にはないけど、どうしていいの？  
「まとめよう」自分にはないけど、どうしていいの？

心配大

どんな場面？

私は、クラスでも部活動でも、人の評価を聞き流すことができません。人が自分のことをいっているのだから、どうも気になるんです。だから、人から話していると、自分のことをいっているのだから心配になってしまっています。

【東日本大震災】  
「2011年（平成23年）3月11日（金曜日）14時46分、宮城県牡鹿半島の東沖、三〇キロメートルを震源とする東北地方太平洋沖で発生した地震のこと。地震の規模はマグニチュード九で、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震である。」

【国際宇宙ステーション（きぼう）】  
きぼうは宇宙航空研究開発機構（JAXA）が開発した日本の宇宙実験棟で、国際宇宙ステーション（ISS）の一部。ISSでは最大の実験棟である。エアロックやロボットアームを備え、ISSでは唯一、重量五〇キログラム程度までの超小型人工衛星を軌道投入できる機能をもつ。

【東日本大震災】  
「2011年（平成23年）3月11日（金曜日）14時46分、宮城県牡鹿半島の東沖、三〇キロメートルを震源とする東北地方太平洋沖で発生した地震のこと。地震の規模はマグニチュード九で、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震である。」

【国際宇宙ステーション（きぼう）】  
きぼうは宇宙航空研究開発機構（JAXA）が開発した日本の宇宙実験棟で、国際宇宙ステーション（ISS）の一部。ISSでは最大の実験棟である。エアロックやロボットアームを備え、ISSでは唯一、重量五〇キログラム程度までの超小型人工衛星を軌道投入できる機能をもつ。



資料4

習得・読むシート3〈エピソードとして載せられている句を正確に、豊かに読み取る学習シート〉

- 1 テーマがどのように個性的に表現されているか、それを自分の経験や感性との関係からどう解釈するかを学ぶ学習シートである。
- 2 詠み人特有の言葉の仕組みやイメージ、リズム等の読み方の基本を習得させ、女川中学生の感性や現実の見方や考え方、表現方法を理解させる。
- 3 読み取ったことを友達と対話・交流することで、詩歌を読む楽しさと発見を共有させる。

④ 女川の中学生在が作った句を豊かに読み取り、そのよさを味わおう。

① ( ) ( ) に入る言葉を考え、表現の工夫と個性を読み取る。

( ) ( ) だけは、壊れなかった。大震災津波の日、初めて食べた。(パン)の味。いつだって道の(タンポポ)負けてない。

② 句の「発見の中心」を読み取り、話し合いつつ読みを深めよう。

みあげれば、がれきの上。こいのぼり

「みあげれば、がれきの上」  
「こいのぼり」  
本の表紙画像

☆ 注意 この句の節句さや、未来を感じさせる表現は？ その理由を、

「みあげれば、がれきの上」…… 壊れかかっている様子を、下を向いてしまいがちで、上を向いて生きていくことについて。

「こいのぼり」…… このほろは、未来を生きる子ども達の成長を祈っているから、そのよさがあるから。

思い出す、多くの笑顔と、通学路

☆ 思い出すのは、なぜ「通学路」なのですか？

通学路は、家から学校への道だ。近所の人や友達とあひさつをしたり、道はたのしい花を見つけたら、その道のり。特別な日ではなく、そんな日常の生活のひとときだ。思い出すのは、思い出すのだから。

黒い波、のまれて消える。町の色。女川は、今、何色。見えますか？

☆ 「色」は何を意味しているのか？

「黒い波」…… 不安や恐怖、圧倒的な力を意味していると思う。  
「何色」…… 震災直後は、町全体が黒い色だったと思う。たくさんの色や美しい色は、豊かさや幸せを表している。今、町の色は何色かと聞いていると思う。

資料5

活用・書くシート〈自分の感性で七七を付け、良さを伝え合う学習シート〉

- 1 これまで学んできた習得型学習を生かし、自分から発信するための学習シートである。
- 2 「みあげれば がれきの上。こいのぼり」に七七を付けて発表し合い、友達が付けた句の良さを「ここがいいね!」で発表させる。
- 3 教材文の中から自分が好きな句を選び、七七を付けて自由に鑑賞させることで、詩歌を読む・詠む楽しさや詩歌の豊かな表現を実感させることにつながる。

⑤ 女川の中学生在が作った句に、下の句(七七)を付けよう。

① 「みあげれば、がれきの上」こいのぼりの句に、下の句(七七)を付けよう。

みあげれば、がれきの上。こいのぼり

ともに歩もう 未来への道

友達が付けた下の句

希望とともに 虹のかなたへ

平和の鐘が 空にひびくよ

ともに歩もう 未来への道

③ 自分が好きな句を選び、下の句を付けよう。

民つてこい 秋刀魚の背中に のつてこい

暗い海から 心の奥へ

逢いたくて、でも会えなくて 逢いたくて 生き 生き 生きよう まだ逢う日まで

ここがいいね!

豊かさや幸せを表す「虹」という言葉がいいね!

景色だけでなく、鐘の「音」を入れたところがいいね!

「ともに歩もう」という言葉に優しさが表れているね!

友達が付けた下の句

希望とともに 虹のかなたへ

平和の鐘が 空にひびくよ

ともに歩もう 未来への道

資料6

探究・書くシート〈レジリエンスについて調べ、自分の考えを形成する学習シート〉

- 1 ノンフィクションのテキスト形式を活用して様々な苦難を乗り越えて生きてきた人物のレジリエンスについて論理的に再構成する学習シートである。
- 2 習得学習と並行して、興味をもった人物の生き方・レジリエンスについて、自分にとっての身近な大人へのインタビューや図書、インターネットを使って情報を収集するよう伝えておく。
- 3 書くことが苦手な生徒の実態を踏まえ、予めモデルを示すとよい。右の例はJAXAで国際宇宙ステーション開発や宇宙飛行士選抜試験事務局を務めた柳川孝二氏のレジリエンスである。

⑥ ※ 本巻に示した本……柳川孝二「宇宙飛行士になる」(中公新書) ※ 柳川孝二「宇宙飛行士になる」(中公新書)

※ 「レジリエンス」は「回復力」「弾力性」を意味する。ここでは「困難を乗り越える力」を指す。

※ 「レジリエンス」は「回復力」「弾力性」を意味する。ここでは「困難を乗り越える力」を指す。

探究・書くシート

空を見上げて 山中 勉 ―言葉を通して、レジリエンスを高めよう―

③ ストップ3 困難を乗り越えた人物のレジリエンスについて、レポートにまとめよう。

※ 「レジリエンス」は「回復力」「弾力性」を意味する。ここでは「困難を乗り越える力」を指す。

※ 「レジリエンス」は「回復力」「弾力性」を意味する。ここでは「困難を乗り越える力」を指す。

探究・書くシート

空を見上げて 山中 勉 ―言葉を通して、レジリエンスを高めよう―

③ ストップ3 困難を乗り越えた人物のレジリエンスについて、レポートにまとめよう。

※ 「レジリエンス」は「回復力」「弾力性」を意味する。ここでは「困難を乗り越える力」を指す。

※ 「レジリエンス」は「回復力」「弾力性」を意味する。ここでは「困難を乗り越える力」を指す。

探究・書くシート

空を見上げて 山中 勉 ―言葉を通して、レジリエンスを高めよう―

③ ストップ3 困難を乗り越えた人物のレジリエンスについて、レポートにまとめよう。

※ 「レジリエンス」は「回復力」「弾力性」を意味する。ここでは「困難を乗り越える力」を指す。

※ 「レジリエンス」は「回復力」「弾力性」を意味する。ここでは「困難を乗り越える力」を指す。



資料7

探究・交流シート〈友達の見方・考え方を学び合い、自分の考えを深め、広げる学習シート〉

- 1 交流・学び合いにより、多くの人物の生き方・レジリエンスを知り、それについて自分の考えを形成し、深めたり広げたりする学習シートである。
- 2 自分が興味をもった人物のレジリエンスを互いに読み合い、着眼点や選ばれたエピソード、まとめ（考察）の良さ等を「いいね！シール」により指摘し、「いいね！カード」を使って伝え合い、関わることができるようにする。

【探究・交流シート】  
空を見上げて 山中勉 ―言葉を通して、レジリエンスを高めよう―  
1年 名刺

ステップ1  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ2  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ3  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ4  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ5  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

資料8

振り返りシート〈学習を通して身に付けた能力や学びの横断的・汎用性について自分の考えを批評的・創造的にまとめる学習シート〉

- 1 ステップ1からステップ4のそれぞれのステップの終わりに、学習を通して学んだことや分かったこと、疑問に思ったことについて書いて振り返らせる。
- 2 ステップ5では、ステップ4までの学びを振り返りながら「マイ・レジリエンス」という形で言語により表出させることで、自分の生き方宣言をさせることをねらいとしている。

【振り返りシート】  
空を見上げて 山中勉 ―言葉を通して、レジリエンスを高めよう―  
1年 名刺

ステップ1  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ2  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ3  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ4  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ5  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

資料9

ルーブリックシート〈学んだことを振り返り、身に付けた能力や学びの横断的・汎用性について評価する学習シート〉

- 1 評価の指標を生徒に理解できる言葉に置き換えて、授業の際に明確に提示するルーブリックシートである。
- 2 それぞれのステップの導入で、到達目標であるS評価、A評価、B評価に細分化された評価基準、すなわち学習目標を具体的に示すことで、生徒は目標に到達するために努力する。また、それぞれのステップの最後には学びを振り返らせて、到達度を下のピラミッドに色を塗ることで評価させる。こうした振り返りを積み上げることで、生徒自身が学習の方向を見通し、量や時間ではなく、質的に高い成果を出すよう主体的に取り組む姿勢を育てる。

【ルーブリックシート】  
空を見上げて 山中勉 ―言葉を通して、レジリエンスを高めよう―  
1年 名刺

ステップ1  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ2  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ3  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ4  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

ステップ5  
「空を見上げて」を正しく読み、書き取ろう。

の生き方・レジリエンスの個性、自分の「生き方」に生かしたいと思うこと等、その人物の生徒が持っている知識や経験や感情を統合し「自分の考え」を「はじめ」「なか」「まとめ」「むすび」の四段階の論理的な文章構成で組み立てさせる。最後に参考にした本やホームページ等を記述させ、比較や分類、関係付け等の情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深めさせる。

#### （５）探究・交流学习（２時間）

##### 一他者の「見方・考え方」を学び自己形成へー

自分が興味をもった人物のレジリエンスについて読み合い、着眼点や選ばれたエピソード、まとめ（考察）の良さ等を「いいね！シール」により指摘した後、探究・交流シート（資料７）の「いいね！カード」を使って伝え合い関わり合う学習を行う。これ等は多くの人物のレジリエンスを知り「自分の考え」を再構築・深化させると同時に、立場や考えを支えるエピソードの選択・構成・記述の妥当性や的確さを判断し、論理的な整合性を吟味、批評する力を養うことにつながる。

#### （６）振り返り学習（評価・一般化）（２時間）

##### ー「マイ・レジリエンス宣言」からメタ認知へー

振り返りは各学習段階でルーブリックシート（資料９）により評価指標に照らし合わせて行い、振り返りシート（資料８・９）で学んだことを言葉にする（メタ化させる）。この段階ではステップ１～４までの学びを振り返り「マイ・レジリエンス」として言語化させる。論理的・客観的に自分の生き方宣言をさせることは言葉を通して自分の存在について理解を深めることになる。

その後「マイ・レジリエンス」を発表し合う。最後に多様なテキスト形式を読み深める意義や楽しさ、新しく学んだこと、今後の生き方・考え方・学びに生かせる汎用性・メタ認知等の視点から振り返らせる。

### 六 よりよい「生き方」の創造と態度の形成へ

これからの学校教育における教育課程構築で重要となるのは、一つには全教科・領域や言語活動のベースに「学びに向かう力（主体性）、人間性等（深い学び）」の形成と評価を正しく位置づける必要があるということである。資質・能力型の教育観を具体化するためには、幼保・小中高校の様々な学習活動を通しどのように社会や世界（自己）と向き合い、どのように主体的・対話的、創造的に人生を送るか。子ども達の「生き方」や価値観の更新、「質の高い深い学び」につながる授業と教育課程・教育方法（評価開発）研究が重要である。

本稿では統合的で深い意味を持つ非認知能力（レジリエンス）の育成という視点から、複雑多様な価値観や情報であふれる現代社会を自分らしく生き抜き、自己と社会を見つめる眼や判断力、感受性を高める実践・評価開発の一環として提案したものである。

#### 〈注記、主な参考文献（一部）〉

- 1、コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへの教育観・指導評価観の転換と語られる。次世代型教育は学力（認知）だけではなく資質・能力（学力を含む非認知能力・コンピテンシーや市民的資質や判断力や感性、モラル等）の道徳・公民的資質、シティズンシップ（市民道徳教育）の枠組みが示されていることが重要であり、ドイツ・アメリカ・イタリア等でも公民的資質の新たな見直しが行われている。  
奈須正裕『「資質・能力」を学びのメカニズム』東洋館出版社（2017年）、無藤隆『新しい教育課程におけるアクティブな学びと教師力・学校力』図書文化（2017年）等。
- 2、佐藤洋一・コーディネーター。第60回愛知教育大学附属名古屋中学校教（2017年10月4日）・シンポジウム『深い学び』を支え育てる批判的思考の在り方」、パネリストは楠見孝京都大学大学院教授、道田泰司琉球大学教職大学院教授。佐藤洋一・研究発表（平成29年度日本教育大学協会研究集会・愛知大会『発表概要集』74~75頁）、「次世代型の資質・能力育成に対応した授業開発」（大学院段階での教育課程改革）2017年10月14日（土）愛知県刈谷市等。
- 3、佐藤洋一・研究発表「資質・能力育成と「中核的な教科」（国語科）の位置」（第133回全国大学国語教育学会・福山大会）2017年11月4日（土）福山市立大学。佐藤洋一「資質・能力型のカリキュラムと評価がみえにくい」『教育科学国語教育 2018年1月号 特集・新学習指導要領国語科を「評価、する」』（明治図書）。同「資質・能力を育てる「言葉による見方・考え方」（読むこと）ーテキスト内容と形式への評価、批評の視点からー」『教育科学国語教育 2018年2月号』（同）等。佐藤洋一・研究会編著『21世紀型教育研究ー新たな学びを創る（紀要第2号）』（2017年7月）等。
- 4、危機や逆境に耐えて立ち直る能力としてのレジリエンスに対する関心が高まっているが、多くの研究はビジネス・シーンにおける啓蒙書レベル及び理論的な考察に留まる。教育現場での実践についても試行的である（文献略）。小・中学校における道徳の実践として以下の先行実践がある。深谷昌志監修『「元氣・しなやかな心」を育てるレジリエンス教材集 1、2』（明治図書2015年）、同『子どもの「こころ」を育てるーレジリエンス』（明治図書2009年）等。
- 5、深谷和子「レジリエンスと自尊感情」（『教育と医学 2014年1月号』、慶応義塾大学出版）。
- 6、山中勉「宇宙と国語が会おうとき」（書下ろし『光村図書出版 中学1年国語指導書』）。
- 7、久世浩司『レジリエンスの鍛え方』（実業之日本社 2014年）の7種類の「思い込み犬」（批判犬、正義犬、負け犬、諦め犬、心配犬、謝り犬、無関心犬）の考え方を生かし実践。
- 8、佐藤洋一・左近妙子『深い人間的な学び』を創造する伝記教材の授業ー『杉原千畝』（開発教材）と向き合う小学六年生ー（愛知教育大学研究報告第66輯 2017年3月）、左近妙子「多様な背景をもつ翻訳教材による『深い学び』ー『のどがかわいた』（小学校六年）を例にー」（『子どもが楽しく生き方と洞察力を育む授業の提案・報告』2017年）等。